



# 文化財保護センターだより

第17号

平成8年11月1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)

TEL058-264-1111(代)  
FAX058-264-0343

●もくじ

|     |                                      |      |                             |
|-----|--------------------------------------|------|-----------------------------|
| 表紙  | タイムスリップ探検隊から……………1                   | 行事   | タイムスリップ探検隊を終えて…5            |
| 調査  | 塚奥山遺跡、西屋敷遺跡<br>与島古墳群、北小木古窯跡群発掘調査状況…2 | 行事   | 岐阜県下発掘調査報告会…6               |
| コラム | 全国の仲間とともに……………4                      | 声・記録 | 梨子谷遺跡現場から……………8<br>センター日誌ほか |



## タイムスリップ探検隊から

8月6日、美濃加茂市の野笹遺跡<sup>のやせ</sup>で第5回「タイムスリップ探検隊」を開催しました。好天に恵まれ、親子25組50名の参加者が、遺跡の発掘体験や遺物の洗浄と拓本などの整理実習に取り組みました。子どもたちは真剣そのもので、調査員や作業員の方々に熱心な質問を投げかけていました。石器や土器などを掘り出した親子の歓声が、遺跡のあちらこちらに響いていました。

## 発掘調査状況



当センターでは、現在、地元関係機関や多数の方々のご協力をいただき、県下11市町村16遺跡で発掘調査を進めています。このうち4遺跡の発掘調査の状況についてお知らせします。

つかおくやま

## ■塚奥山遺跡 (揖斐郡藤橋村)

本遺跡は、揖斐川の最上流部の旧徳山村塚集落より約2km上流の左岸段丘上に位置し、徳山ダム建設事業に伴い、発掘調査を進めています。

この地では、昭和19年頃から開田が始まり、その際、多量の縄文土器や石器類が発見され、村内でも最も早くから遺跡として知られることとなり、「宮ヶ原遺跡」とも称されています。

本遺跡は、平成8年度から3カ年計画で、12,100㎡を調査する予定です。初年度にあたる今年度は、層位を確認するために試掘を行った後、遺跡の西側部分を中心に1層(表土)・2層(水田の敷土)・3層(整地層)を掘削しています。

1～3層から出土した遺物は、縄文時代中期後半を中心にはほぼ縄文時代全時期にわたっており、本遺跡の特徴の一つがうかがえます。しかし、遺跡の中でも時期ごとに出土位置に偏りが見られます。これは、遺跡を形成する場所が時期ごとに若干異なることもあげられますが、開田の際に、削平・盛土が大幅に行われていることが大きいと思われる。遺構がどれだけ残存しているか、期待されるどころです。

また、試掘調査によって、3層より下に縄文時代の包含層が確認されています。特に、遺跡の西南部では、比較的浅い位置から縄文時代後期後葉の土器がまとまって出土しています。今後、この付近を中心に後期後葉の包含層の広がりを確認していく予定です。



塚奥山遺跡 出土土器

にしやしき

## ■西屋敷遺跡 (関市池尻)



西屋敷遺跡 畦畔検出状況

本遺跡は、東海環状自動車道建設事業に伴う発掘調査で、昨年度の試掘調査によって、中世の水田面が確認されています。本遺跡の周辺には、国指定史跡の弥勒寺跡や関市の史跡公園となっている塚原遺跡があります。

これまでの調査によって、中世と近世の水田跡と考えられる畦畔(あぜ)や、それに伴う杭列を検出しました。水田は谷筋に形成されたと考えられ、斜面に沿って、畦畔や杭列によって細長く区画されています。検出された杭の数は、約600本あります。杭列は、畦畔の補強と考えられるものが多く見られます。中には、板を打ち止めた配列の杭も見られます。また2本が対に打たれている杭や、斜めに打ってある杭も多く見られます。

中世の水田面と思われる層からの出土遺物は、現在のところ、ほとんどが山茶碗・小皿や土師器皿です。永楽通宝や宋銭などの古銭や土錘・土鈴も出土しています。また、現代の水田の下の層からは、須恵器・灰釉陶器・中近世陶磁器・古銭(寛永通宝など)・煙管(雁首・吸口あわせて約50点)・鉛玉・石鏃などいろいろな時期の遺物が出土しています。これらは、周辺の畑や山からの土砂の流入により、様々な時代の遺物が混入したものと考えられます。なお、中近世陶器の中には、黄瀬戸・天目・志野などの碗・皿類が多く見られます。

## よしま 与島古墳群 (高山市上切町)

高山市内には、現在約70基の古墳が確認されています。その中で、高山市北部で宮川と合流する川上川左岸に所在する古墳が過半数を占めています。

与島古墳群は、その一群です。

本古墳群は、遠く乗鞍岳、北アルプスを望む南向きの斜面に形成され、近くに古来から利用されてきた瓜栗街道や与島地区の集落を見下ろすことができます。また、古墳群の付近には「いわがほら(岩が洞)」と呼ばれる地名も残っており、古墳に使われている石はこの付近で産出される石材であると思われます。

古墳群の周辺には、昭和32年に県指定史跡とされた「よしま1号古窯跡」をはじめとする平安時代の古窯跡3基や縄文時代の住居跡などの遺跡が点在しています。

今回の調査によって、古墳時代後期の古墳3基(与島3・4・6号古墳)が検出されました。出土遺物などから、いずれの古墳も7世紀代のものと考えられる横穴式石室をもつ円墳です。

最も規模の大きい3号古墳は、直径約12m、石室の長さ約6m、幅約1.4m、高さ約1.7mです。石室の奥壁は通称「鏡石」と呼ばれる一枚岩で造られ、棺を納める玄室とその入口にあたる羨道との境には、2本の柱状の石を立て形成しています。玄門は玄室内に左右から突出しています。この石は「袖石」と呼ばれ、しかも左右両側に袖石がある「両袖式」の石室です。玄室の床面には拳大の礫を敷き詰め、「棺台」と思われる2個の扁平な石が置かれています。

4号古墳は、石室の半分以上が消失していましたが、羨道部の残存状態はよく、これによって石室全体の形を推測することができます。3号古墳と同様に両袖式の石室

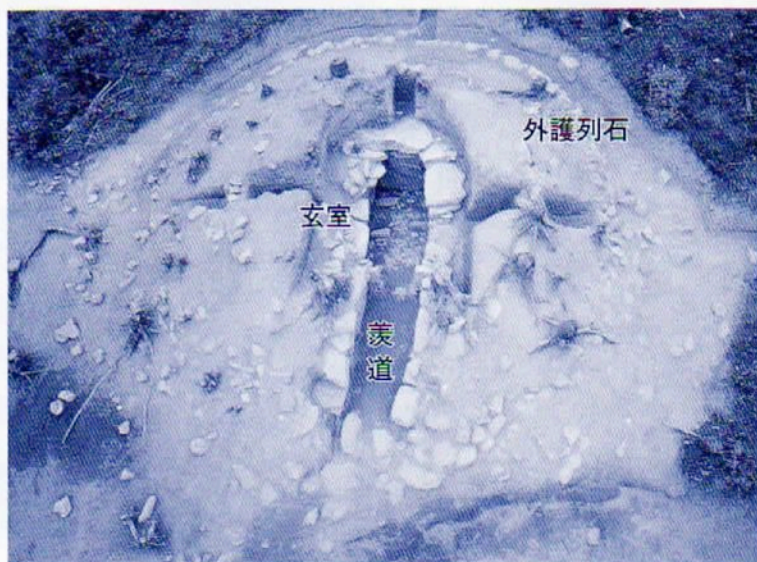
で、石室の長さ約3.5m、羨道部の幅約0.8m、玄室の幅約1.25mです。玄室内の床面には敷石が部分的に残っています。

6号古墳は、4号古墳と同様に石室の約半分が消失していました。しかし、玄室の残存状態はよく、3号古墳に比べ、規模は小さいながらも奥壁に鏡石を置き、床面には石を敷き詰めています。

3号古墳と4号古墳のそれぞれの周囲には、「外護列石」と呼ばれる石垣状の石組がしっかりと残っていました。これは、古墳と他の地域を区別したり、墳丘の盛土の流出を防いだりするものです。特に3号古墳では、上下2段に外護列石が巡らされています。

古墳の石室内やその周辺からは、高坏をはじめとする須恵器や土師器が出土しました。3号古墳からは、高坏・坏・蓋のセットで須恵器が出土しました。4号古墳からは、「甕」と呼ばれる注ぎ口をもつ須恵器や、刀の一部と思われる破片、刀子、釘などの鉄製品も出土しました。

飛騨地方でこの時期の古墳を発掘するのは初めてのことであり、古墳の築造方法や石室の形態など、この地方の古墳時代の様相を解明する貴重な研究資料が得られたといえます。



与島3号古墳 検出状況

きた お ぎ こ じ ゅ う あ と

## ■北小木古窯跡群 (多治見市北小木町)

本古窯跡群は多治見市北小木町及び大沢町に所在し、標高200～300mに山茶碗窯や炭焼窯が点在しています。当センターでは、県道多治見犬山線改良工事に伴い、本古窯跡群のうち、大沢13号古窯跡、北小木大谷洞28号古窯跡、北小木神明洞1号炭焼窯跡の3基の発掘調査を実施しています。

大沢13号窯は、全長約11m、幅約2.5mで、燃烧室、焼成室、煙道部からなり、炎を分けて窯内部の温度を増すための分焰柱をもつ山茶碗窯です。焚口の両脇には山茶碗を廃棄した土坑や窯体上方の平坦面からは焼土や粘土溜まりを検出しました。これらは作業場の一部として機能した可能性もあります。

大谷洞28号窯は、今回の調査では、煙道部及び焼成室上端部のみの調査となりました。残存部の長さは、約2.5mです。

出土遺物は、2基の古窯ともに13世紀代の山茶碗が確認されています。

また、神明洞1号炭焼窯は、全長約3m、幅約2mで、平坦な床面をもち、煙道部は煙突状に垂直につくられていました。炭焼窯のため、遺物はほとんど出土しませんでした。灰原の最下層から13世紀代と考えられる数点の山茶碗片が出土しており、炭焼窯としては年代の特定できる貴重な資料といえます。



大沢13号古窯跡 検出状況



## ■全国の仲間とともに

阪神・淡路大震災の復旧・復興事業に協力して、本年度、県教育委員会より小淵忠司さん・三輪晃三さんが埋蔵文化財の発掘調査のため、4月から現地へ派遣されています。そこで、2回にわたって、その近況を紹介します。

### ■兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 復興調査班 三輪 晃三

このほど私が担当となった兵庫県尼崎市武庫庄遺跡の第36次調査が終了しましたので、その成果の一部と近況をお知らせします。

本遺跡は、弥生時代を中心とする集落遺跡です。今回の調査では、弥生時代中期後半の大型柱列2条(東列3本・西列5本の柱穴、各間隔2.4m)を検出しました。これは8.6m×9.8m以上の大型掘立柱建物跡の可能性が考えられます。さらに、この遺構の外側を囲むような板塀跡を検出しました。このことから、集落の中の特殊な領域を画していると考えられ、内部の機能が注目されます。現地説明会には約600名もの見学者が訪れ、関心の高さに驚かされました。

さて、震災から2年目の今年、「がんばろうKOBÉ」の合言葉のもとに、街には活気がよみが

えり、各地で夏祭りや秋祭りなどのにぎやかな催しが行われています。震災の傷は癒えたかのようにも見えますが、今もなお、倒壊したままのビルや家屋があったり、解体・撤去した後の更地が散在していたりするのを目の当たりにします。こうした状況の中で、最小限の時間の中で最大限の成果を得るべく私たち全国から派遣された50名の職員の発掘調査はこれからも続きます。



武庫庄遺跡現地説明会で説明中の三輪さん

# タイムスリップ探検隊を終えて 行事

今年度のタイムスリップ探検隊は、美濃加茂市の野笹遺跡で行いました。当日は、8月上旬としては比較的涼しい一日でしたが、「縄文土器だ!」「弥生土器を見つけた!」という興奮した子どもたちの声が、遺跡に響きわたった一時でした。

発掘体験の後は、場所を地元古井小学校の体育館に移し、自分たちで掘りあげた縄文土器の水洗いや土器の拓本とりの実習を行いました。

ここに、探検隊の活動を終えた子どもたちや保護者の方々から寄せられた感想を紹介します。



拓本実習に取り組む探検隊員

今日はふだんではできない体験をさせていただきありがとうございました。ぼくは歴史があまり好きではなかったけれど、今日みたいに自分で発掘をしたりすると、学校で勉強したことに加えて、地域の歴史がよくわかったような気がします。今日のような機会があったら、またやってみたいです。

[美濃加茂市立古井小6年

美濃加茂市内に住んでいますが、野笹遺跡の場所も知りませんでした。しかし、この遺跡に縄文時代から綿々と人類が住みついていることを知り、大変驚きました。遺物もたくさん出土し、また拓本とりも経験することができて有意義でした。古い時代のものを掘り出すことは、ロマンがあり、本当に楽しい企画です。また近くであれば、ぜひ参加したいと思います。

[美濃加茂市

最初にいきなり大きな土器が出てきた時はうれしかった。土器のかけらを見て、つぼや皿を思いうかべると、とても楽しくなりました。土器のかけらをさわるのは初めてだったから、こんなにざらざらしているのかと思ったり、こんな線がついているのかと思いました。拓本とりもいろいろ教えてもらってとても楽しかったです。

[可児市立今渡北小6年

初めてこのような発掘体験や拓本作業などをすることができ、うれしく思っています。

夏休みの一日を小学6年の娘と同じ作業をすることで、話題がまた一つ増えました。6年生ということで、これまでに古墳などの遺跡の見学をしてきましたが、今日の体験は娘も喜んでいました。先人の偉大なる知恵を学ぶことができてよかったです。

[岐阜市

# 岐阜県下発掘調査報告会 行事

—— '96岐阜県新発見考古速報 ——

平成7年度は岐阜県下において、19市町村46遺跡で発掘調査が実施されました。その調査の成果などを交流する場として、第4回岐阜県下発掘調査報告会が「'96岐阜県新発見考古速報」と銘打って、さる7月7日に岐阜県図書館で開かれました。県内外の考古学関係者・一般の方々など152名が参加され、報告者の説明を真剣な眼差しで聞き入ってみました。要旨は次の通りです。

あひはら

## ◆上原遺跡 (揖斐郡藤橋村)

(財)岐阜県文化財保護センター 小谷和彦

揖斐川右岸段丘上に位置する遺跡。本遺跡の第1地点では、徳山地区で初めて縄文時代前期後葉の竪穴住居跡7軒を検出。縄文時代前期後葉の北白川下層Ⅲ式や十三菩提式土器が出土。なお、今年度も継続調査中で、玦状耳飾片などが出土。

ひるいおおつか

## ◆昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)

大垣市教育委員会 中井正幸氏

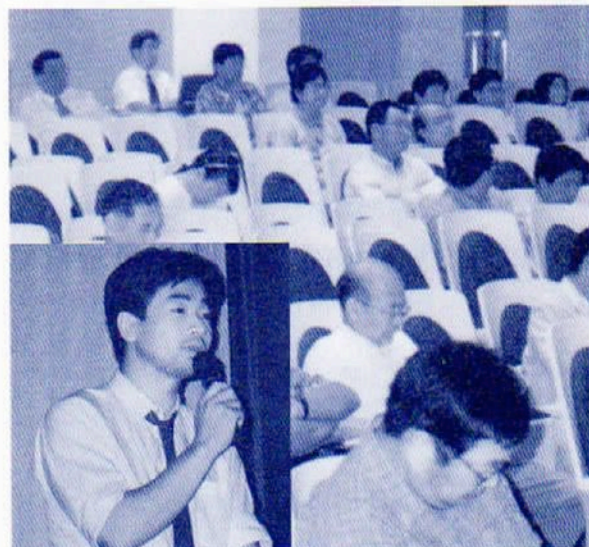
市指定史跡であり、県内最大の前方後円墳として知られている。7年度調査(第3次)においては、幅約26m、深さ約2mの周濠が巡っていることを確認。墳丘側で古墳の表面を覆った葺石と平坦な面、それに伴う埴輪列の一部を検出。前方部の正面にあたる調査区では、円筒埴輪のほかに家形埴輪などの形象埴輪の破片が出土。

みのこくみ

## ◆美濃国府跡 (不破郡垂井町)

垂井町教育委員会 原田義久氏

平成3年度からの継続調査。国府域の範囲確認を目的として実施され、四面庇付礎石建物跡、鍛冶工房跡、土塁を確認。7年度調査(第5次)においては、御旅神社北側地区で東西棟と考えられる大型庇付建物と中世の溝を検出。忍勝寺南側地



区では、平安時代と考えられる柵列と中・近世の土壌を検出。

しょうけはいじ

## ◆正家廃寺跡 (恵那市長島町)

恵那市教育委員会 三宅唯美氏

県史跡正家廃寺と周辺の寺平遺跡の調査を平成5年度から5カ年計画で実施。7年度は中心伽藍の一つである塔跡を調査。塔初層の平面規模は1辺6m、心柱72cmであること、奈良時代に建立された塔と類似する特性を持つことを確認。基壇裾の灰層の堆積や礎石の火熱状況から、既に調査を終えた講堂と同様に火災によって焼失したと推定。焼失時期は9世紀後葉から10世紀初頭。

おぎきじょう

## ◆尾崎城跡 (大野郡丹生川村)

丹生川村教育委員会 高樋幸助氏

村指定の尾崎城跡の調査は、平成4年度から実施。7年度調査(第3次)の目的は、本丸と二の丸の間の堀切と帯郭の構造の解明。堀切は土盛りをして通路としている。さらに、両側に土留めのための石を検出。帯郭は縁の部分の地山を掘りこんで中央を溝状にし、水が流れる構造になっていたことを確認。

◆<sup>どうのまゑ</sup>堂ノ前遺跡 (吉城郡宮川村)

宮川村教育委員会 林 直樹 氏

遺跡の北に断層が走っている。そこから引き起こされる地震によって縄文時代前期末から中期初頭にかけて、一旦人々の生活の痕跡が途絶え、その後、中期中葉から再開されるということが発掘調査とともに科学的調査からも確認。「動物意匠文土器」が示しているように、北陸系と信州系の両土器文化の影響を受けていたことが判明。

◆カクシクレ遺跡 (大野郡丹生川村)

(財)岐阜県文化財保護センター 上嶋善治

荒城川<sup>あらかぎがわ</sup>左岸の段丘上に位置する遺跡。縄文時代中期の竪穴住居跡1軒とピット群、水さらし場遺

構1基を検出。水さらし場遺構は、板状の木材が約1m×0.9mの方形に組まれ、深さは約30cm。トチ・クルミなどの堅果類の処理に利用されたと考えられ、比較的良好な状態で検出。出土遺物は縄文土器・石器など約1万点と植物遺体。

◆阪神淡路大震災発掘調査報告

岐阜県教育委員会 長屋幸二 氏

震災復興事業にあたって、破壊される可能性のある「被災遺跡」は280遺跡、250haにのぼる。復興が順調か否かは一概には言えないが、兵庫県の人々の発掘調査に対する関心は高く、ある現地説明会では600名以上の参加者があった。しかし、震災の被害は大きく、心の傷はまだ癒えない。



屋敷大家古墳  
墓石(後方)・埴輪列(前方) 検出状況



美濃国府跡  
四面庇付大型建物跡 検出状況



正家庵寺塔跡 検出状況



堂ノ前遺跡出土「動物意匠文土器」



## 発掘作業に参加して

梨子谷遺跡(春日村)発掘調査現場の作業員さん

土器を自分の手で触れた時の感動は素晴らしい。さわってみると、何か文様がある。調査員さんに土器の文様について説明をしていただく。縄文の人々の生活の知恵にまたまた感動。私の頭には少しずつしか入らないけれど、明日もがんばろう。

### センター日誌

- 6. 19 関ヶ原町歴史民俗資料館藤岡氏、小関御祭田遺跡視察  
20 文化庁原田調査官、飛騨出張所整理調査指導
- 7. 1 久保田池田町長、二ノ井遺跡視察  
6 三重大八賀教授・関西外語大佐古助教、与島古墳群調査指導  
7 「県下発掘調査報告会-96'新発見考古速報-」(県図書館、152名参加)  
10 県教委元仲教育次長ほか13名、牧野小山遺跡視察  
11 東大阪市文化財協会別所氏、二ノ井遺跡視察  
12 揖斐郡連合婦人会22名、上原遺跡見学 立命館大和田教授ほか、  
牧野小山遺跡視察 郷土史家大岡氏、小関御祭田遺跡視察  
17 岐阜大早川助教・群馬埋文七能登・小島氏、たのもと・丸山遺跡視察  
18 西濃教育事務所職員20名、上原遺跡見学 東京都埋文七安孫子氏・  
國學院大谷口講師、飛騨出張所視察  
22 関ヶ原町今村教育長ほか6名、小関御祭田遺跡視察  
春日村小中学生20名、細野遺跡見学 大垣市北小校下文化財  
愛護少年団26名、塚奥山遺跡見学  
23 久瀬村子ども会35名、上原遺跡見学  
26 春日村森教育長ほか、細野遺跡視察  
27 与島古墳群現地説明会 (120名参加)  
28 春日村教委関係30名、揖斐川整理所見学  
29 春日村文化財審議委員3名、細野遺跡視察  
30 船山北古窯跡、現地調査終了  
31 各務原市埋文調査七渡辺氏、本部整理所視察
- 8. 1 米原町教委中井氏、片山城跡関連指導  
5 伊吹町教委高橋氏、小関御祭田遺跡視察  
6 タイムスリップ探検隊(野笹遺跡・古井小、親子50名参加)  
関市西村助役ほか、下有知遺跡群視察  
7 揖斐郡小中社会科自主研究会6名、塚奥山遺跡見学  
8 歴史民俗博物館小島・千田氏、飛騨出張所視察  
10 京都大文化財七千葉氏・日本考古学協会加藤氏、飛騨出張所視察  
23 県教委主催「文化財探訪ツアー」15名、飛騨出張所見学  
福井県埋文調査七白川氏、塚奥山遺跡視察  
24 福井県埋文調査七赤澤氏、本部整理所視察  
27 玉川大戸田講師、飛騨出張所関連指導  
春日村老人クラブ58名、梨子谷遺跡見学  
第4回基礎講座(岐阜総合庁舎ほか、~29)  
31 北陸の縄文土器を見る会50名、飛騨出張所見学
- 9. 2 愛知学院大教授大参義一先生、穂積整理所整理調査指導  
3 多治見市文化財保護七山内氏、穂積整理所整理指導  
4 「新修名古屋市史」民俗部会脇田氏、穂積整理所視察  
11 春日村森教育長ほか、梨子谷遺跡視察  
12 金沢市教委南氏、穂積整理所視察  
13 土岐市埋文七林氏ほか、牧野小山遺跡視察  
26 元興寺文化財研究所植田氏、野笹遺跡視察  
27 敦賀女子短期大綱谷講師、穂積整理所関連指導 関ヶ原町教委・  
関ヶ原北小75名、小関御祭田遺跡見学  
29 日本大遠藤教授、野笹遺跡関連指導  
30 小関御祭田遺跡、現地調査終了



1m以上の深い地中より8000年前の我々の祖先が作った土器を我々現代人が手に触れることができる。そんな夢のような出来事に感無量。そして、仲間とのコミュニケーションの場、さらに老化防止にも役立っています。

何千年も前の誰かが使っていた土器や石器を発見した時、縄文人の心に触れられる感動はとて言葉に表せないものがあります。人類の過去・現在の生活の変化について仲間と話し合い、楽しく明るく作業ができることに感謝する日々です。

### あとがき

9月13日、愛知学院大学教授大参義一先生が急逝されました。先生には、当センター設立以来、指導調査員として常にお教えを頂き、9月2日は穂積整理所で一日ご指導頂いたばかりでした。先生の温かいご指導に深く感謝しつつ、先生のご冥福をお祈り申し上げます。

本号に掲載しましたタイムスリップ探検隊は今年で第5回を迎えました。今回も参加した小学校5・6年生や保護者の方から感動的な感想を寄せて頂き、この企画の意義を再確認しております。また、夏休みを利用して、小中学生の遺跡見学があったり、進路学習の一環として発掘現場や整理所で職場体験をする中学生もあつたりするなど、埋蔵文化財保護に携わる仕事について理解が深まっていることを喜んでいます。